

有明医療センター 地域医療連携だより

小 岱

第56号

2026年
1月発行

- ・地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院
- ・臨床研修病院(基幹型・協力型)・災害拠点病院
- ・脳卒中急性期拠点医療機関/回復期医療機関
- ・心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院/回復期医療機関
- ・日本医療機能評価機構認定病院
- ・第2種感染症指定医療機関
- ・地域周産期中核病院



新年のご挨拶

荒尾市病院事業管理者 大嶋 壽海

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。日頃より、本院の医療活動に対し、多大なるご理解と温かいご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本院は、令和6年12月2日のグランドオープンから、おかげさまで1年が経過いたしました。この間、皆様の温かいご支援とご協力により、外来患者数並びに入院患者数ともに増加してきております。ご紹介いただく患者さんの地域も幅広くなり、病診連携の輪の広がりを実感しており、改めて皆様に厚く感謝申し上げます。正面玄関前のフラットで広い駐車場は好評をいただいております。また、玄関近くまでのバスの乗り入れも、アクセス面で利便性が大幅に向上しています。これらもひとえに皆様のご支援、ご協力の賜物と、改めて感謝申し上げます。

一方で、医療を取り巻く環境はますます厳しさを増してきております。特に麻酔科医不足に加え、常勤小児科医の不在期間が1年ほど続きましたが、昨年10月に1人小児科医を迎えることができました。1人であるため診療体制に一部制約を設けて皆様にご不便を強いており、大変申し訳なく思っております。また、昨年4月に開設した関節機能再建センターは、ロボット支援人工関節手術を開始し、毎週5症例ほど手術を施行しておりますが、好評につき半年ほどお待ちいただく状況となっております。このような状況にもかかわらず、地域の医療機関等の皆様から温かいご支援やご協力が、本院の診療を支えてくださっていることに改めて深く感謝申し上げます。

現在、非常勤医師や他医療機関との連携強化などに取り組み、地域の医療ニーズに可能な限り対応できるように努力を続けているところです。今後も、これらの課題解決に向け、あらゆる手段での医師確保に努力を続けていく所存です。また、地域医療連携の円滑化のため、昨年10月15日から医療機関向けに、当日患者紹介専用回線(MD:有明メディカルダイレクト)を開設いたしました。電話交換を介さず所要時間が短縮され、ご利用いただいた先生方にも好評でございます。

本院は、「いい病院づくり」をテーマに掲げ、地域の中核病院とし「地域完結型医療」を目指しております。地域医療を担う皆様には今後とも、また、これ以上のご協力をお願いする場合がございます。引き続きご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。地域医療の発展と患者さんへのより良い医療の提供を目指し職員一丸となって全力で取り組んでまいります。令和8年が皆様にとりまして健康と幸多い年であることを心より祈願申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

院長 山本 真一

あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方におかれましては健やかに新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は本院の診療や運営に多大なるご支援を賜わり誠に有り難うございました。

おかげさまで新病院になってから2年以上が経過し、徐々に形が整ってまいりました。全国的には消化器外科医不足のため、癌の手術や緊急手術が受けられなくなることが懸念されていますが、当院は国指定地域がん診療連携拠点病院として熊本大学消化器外科の応援も得て食道癌や膵臓癌など高難易度手術も安全におこないながら、緊急手術にも対応しています。また、消化器内科ではAIを用いた内視鏡診断支援システムを導入し、より早期の癌を見つけて内視鏡的に根治切除をおこなっています。今後は胃癌や大腸癌に対するロボット支援手術を導入していきたいと思っております。呼吸器内科も1名増員となったことで、肺癌に対する診断、治療も充実してきました。呼吸器外科の常勤医を確保して肺癌の外科的治療にも取り組んでまいります。また、県北唯一の放射線治療施設として、放射線治療装置の更新も視野にしています。

災害拠点病院としては、昨年新たに日本のDMAT隊員1名、熊本ローカルDMAT隊員3名が加わりました。令和7年11月16日に荒尾市総合防災訓練の一環として多数傷病者受入れ訓練をおこない、全職員の防災、減災の意識を高めています。令和7年8月には玉名市で豪雨災害があり、11月には阿蘇地方を震源とする最大震度5強の地震もありました。今年こそは穏やかな一年になって欲しいと願いつつ、いつ、どのような形で起きるかわからない災害に対し、発災時に速やかに対応できるよう、万全の準備をおこなっています。

新病院開院時から開始した荒尾市周産期オープンシステムは、これまでに350人以上の新しい生命が誕生しています。昨年10月から小児科に新生児医療が専門の嶋田先生をお迎えし、より安心して出産ができるようになりました。今後は産科麻酔に精通した人材が確保でき次第、無痛分娩にも取り組んでまいります。

昨年4月から関節機能再建センターを創設しロボット支援下関節手術を開始いたしました。患者さんの満足度も高く手術は数ヶ月待ちの状態です。今後、麻酔医の増員を図り手術枠を増やして待機日の短縮を図ってまいります。

ここではご紹介できませんでしたが、ほとんどの診療科で進化を認めています。荒尾市立有明医療センターという名称も、市民の皆様にも少しずつ浸透してきました。当院はこれからも地域のの中核病院として急性期医療を担ってまいります。急性期の診療が終わった後は、転院、施設入所、在宅医療、介護への速やかな移行をお願いいたします。幸いこの地域には長年培われてきた、他では類を見ないほど強い病診連携の絆があります。今年もお互いの力を合わせ、一致団結して地域住民の健康を守り幸福度を向上させていきたいと思います。

新年のご挨拶

看護部長 寺本 清美

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、当院の看護活動ならびに地域医療連携にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度は第8次医療計画の本格施行により、地域包括ケアの推進と医療機能の分化・連携がさらに重要となります。看護職には、患者・家族を生活の視点から支える力と、地域をつなぐ調整力が求められています。

当院では、地域の中核病院として、医療・介護・福祉機関との連携を強化し、患者さんが安心して療養できる体制づくりを進めています。看護部では「つなぐ看護・支える看護」を合言葉に、入院から在宅まで切れ目のない支援を目指しています。患者サポート・医療連携室を中心に、多職種が協働して早期から退院支援に取り組み、患者さんご家族に寄り添う看護を実践しています。また、当院の特色である周産期オープンシステムでは、地域の開業医の先生方と連携し、妊娠から出産、育児まで安心して過ごせる環境を整えています。分娩に関わる医師・助産師との協働を通じて、命のはじまりを地域全体で支える体制づくりを進めています。さらに、セル看護提供方式の継続的な見直しを行い、患者中心の看護とスタッフの働きやすさの両立を目指しています。キャリア支援やメンタルサポートにも力を入れ、職員が誇りとやりがいを持って働ける職場環境づくりに努めています。

今後も地域の皆さまと手を携えながら、信頼される看護の提供を通じて、安心とぬくもりのある医療に貢献してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



診療技術部部长 堺 峰崇

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当院の診療技術部にに対し、多大なるご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。地域医療の第一線でご尽力されている地域の医療機関の先生方をはじめスタッフの皆様、心より感謝申し上げます。

当院の診療技術部は、臨床検査部門、放射線部門、リハビリ部門、臨床工学部門、栄養科部門の5部門の専門職種で構成されています。これら全ての部門が、患者さんにとって最も質の高い医療を提供できるよう、日々、専門知識と技術の研鑽に励んでおります。特に、地域の医療機関の先生方からのご紹介により当院で高度な検査や治療を受けられる患者さんに対し、各部門が密に連携し、円滑かつ迅速なサポート体制を築くことに注力しております。

- ・臨床検査部門：迅速かつ正確な検体検査により、診断・治療方針決定のスピードアップに貢献します。
- ・放射線部門：最新鋭の画像診断装置を駆使し、非侵襲的で詳細な情報提供に努めます。
- ・リハビリ部門：急性期から回復期、さらには在宅復帰を見据えた質の高いリハビリテーションを提供し、生活の質の向上を支援します。
- ・臨床工学部門：医療機器の安全管理と適切な操作を通じて、手術や集中治療における治療の安全性を確保します。
- ・栄養科部門：疾病別や術後の栄養管理を個別化し、治療効果の最大化を栄養面からサポートします。

地域包括ケアシステムの進展に伴い、病院と診療所との連携はますます重要性を増しております。当診療技術部としても、診療に役立つ最新の知見や技術情報を積極的に共有し、連携を一層深めていく所存です。本年も、患者さん第一の姿勢を貫き、地域の医療機関の先生方との信頼関係をさらに深め、地域医療の質の向上に貢献できるよう、スタッフ一同、邁進してまいります。

皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

事務部長 長谷 慎一

明けましておめでとうございます。

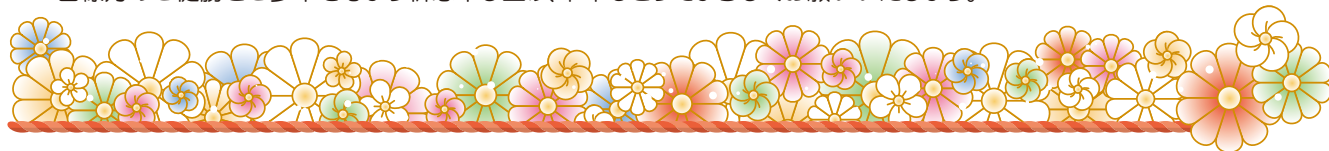
荒尾市立有明医療センターの事務部長として、連携機関の先生方をはじめ職員の皆様方、介護・福祉施設の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は、当院の活動にご理解とご支援、ご協力を賜り、地域中核病院としての役割を果たすことができましたことに、厚く御礼申し上げます。

当有明医療センターは、令和5年10月の新病院への新築移転から約2年、令和6年12月の駐車場を含めたグランドオープンから約1年が経過し、新しい施設、設備、機器が整ったことで、これからますます、連携機関の方々と共に大きく飛躍する年となることを願っております。当センターは「地域連携を進め、地域完結型医療を目指す」ことを基本方針の一つとしております。また、効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指すことも重要な使命です。

昨今の物価高騰の影響が続く中、一方では診療報酬が伸び悩み、厳格化され病院経営は厳しさを増す環境ではありますが、このような厳しい医療環境にあっても、私たちは経営の効率化と増収の両面に努め、さらに、他医療機関との連携を強化するなど、可能な限り地域の医療ニーズに対応できるよう努力を続けてまいります。地域の医療を担う皆様には、今後ともこれまで以上のご理解とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

荒尾市立有明医療センターは、今後も皆様との連携を深め、「患者中心の安全で質の高い医療の提供」を目指し、地域医療の発展と住民の皆様の健康の維持・増進に貢献していく所存です。

皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新任医師の紹介



血液内科 部長

徳永 賢治 (トクナガ ケンジ)

出身地 / 熊本 出身大学 / 熊本大学 卒業年次 / 2004 年

- 日本血液学会 血液専門医 ●日本血液学会 血液指導医
- 日本造血・免疫細胞療法学会 移植認定医 ●日本血液学会
- 日本内科学会 ●日本造血・免疫細胞療法学会

血液内科を専門としています。前任の山口医師に代わって赴任してきました。地域の皆さまのお役に立てるようがんばって参ります。



小児科

嶋田 和浩 (シマダ カズヒロ)

出身地 / 札幌 出身大学 / 北海道大学 卒業年次 / 2006 年

- 日本専門医機構認定 小児科専門医 ●日本小児科学会認定 小児科指導医
- 日本周産期新生児医学会新生児領域専門医 ●新生児蘇生法「専門」コースインストラクター
- 日本小児科学会出生前コンサルト小児科医 ●日本新生児成育医学界暫定フォローアップ認定医
- 日本小児科学会 ●日本周産期新生児医学会 ●日本新生児成育医学会
- 日本小児神経学会

今回縁があり荒尾に参りました。これまで新生児や母子支援・育児支援を中心に小児医療に携わってきました。当地域の先生方と連携を取り、お子様やご家族のために尽力していきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

患者サポート・医療連携室 新任者の紹介

患者サポート・医療連携室 看護師長 山下 良子

2015年に看護師長の辞令を頂き、外科病棟、内科病棟、手術室、救急外来・内視鏡室を経て、この度「患者サポート・医療連携室」に着任いたしました。

私に与えられた任務は、新たな取り組みである「有明メディカルダイレクト」を濱口医師と共に立ち上げ、運用を開始することです。これまで医師会をはじめとする地域の連携医療機関の先生方には、当院へ当日患者紹介をして頂く際に大変ご不便をおかけし、当院に対する満足度調査においても数々のご意見を頂きました。

そこで、医師、看護師に直接繋がる専用ダイヤル「有明メディカルダイレクト」開設の運びとなり、10月15日より試運用、11月4日より本格運用を開始しておりますが、いかがでしょうか。当院の医師が一丸となり、紹介の電話が入った際には“Yes”の選択肢のみの気持ちで迅速に対応しておりますが、これまでとの違いを感じて頂いておりますでしょうか。まだまだ不慣れな事もありご迷惑お掛けすることもあるとは思いますが、この取り組みが軌道に乗り、当院に対する満足度の向上のみならず、地域住民の健康の維持増進に繋がるよう精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



病院理念

地域住民の健康の
維持・増進に努め、
患者中心の安全で質の高い
医療の提供を目指します。

基本方針

- ❶ 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。
- ❷ 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
- ❸ 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。
- ❹ 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

患者さんの権利と責務

- ❶ あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。
- ❷ あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ❸ あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。
- ❹ あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。
- ❺ あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。
- ❻ 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。
- ❼ 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。
- ❽ 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。



荒尾市立有明医療センター 地域医療連携だより「小袋」

発行：荒尾市立有明医療センター 患者サポート・医療連携室

連絡先：〒864-0041 熊本県荒尾市荒尾2600 TEL：0968-63-1115 FAX：0968-62-4543

メールアドレス：bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

荒尾市立有明医療センター 公式Instagram QRコード▶



ARIAKE_MEDICAL_CENTER